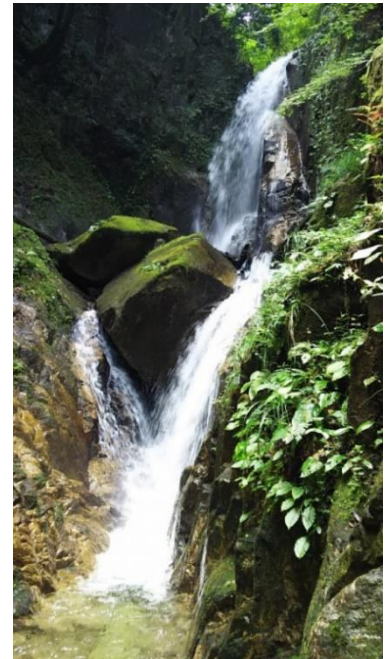


広島市西部の谷

Written and copyrighted by iwamochan2¹

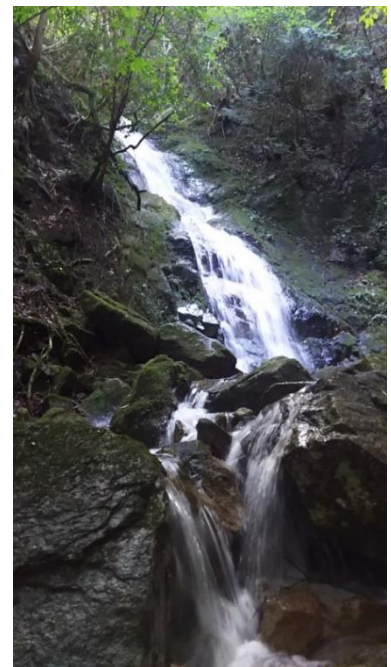
1. 序

広島市西部の山々は、標高は 1000m に満たない山がほとんどである。西中国山地の東のへりに位置するが、山のスケールは大きくなく、手軽に楽しめるため多くの人を迎えている。だが、その谷となるとどうであろうか？人気のハイキングコースのすぐ脇にありながら、西中国山地の陰に隠れて沢登りの対象ともならず、訪れる人もまれである。しかしながら、これらの谷には広島県の地形を特徴づける東北から南西へ延びる断層帯が走り、広島花崗岩の巨岩を有して、低山ながらゴルジュや大滝を秘めている。かつては里山として、人の痕跡もみられるが、戦後の杉の植林により、近年は人も入らず、道も失われ、谷も荒れてしまった。しかし、まだ美しい溪畔林やブナの森が残る谷も多い。日常を離れて、これらの谷を巡るとき、都市のすぐ近郊にありながら、未知の発見にわくわくし、秘められた景色に癒され、自由で静かで幸せな時間を過ごすことができるだろう。そんな谷を発見し、紹介していきたい。(写真は念仏谷川右谷のゴルジュを割る20m滝)

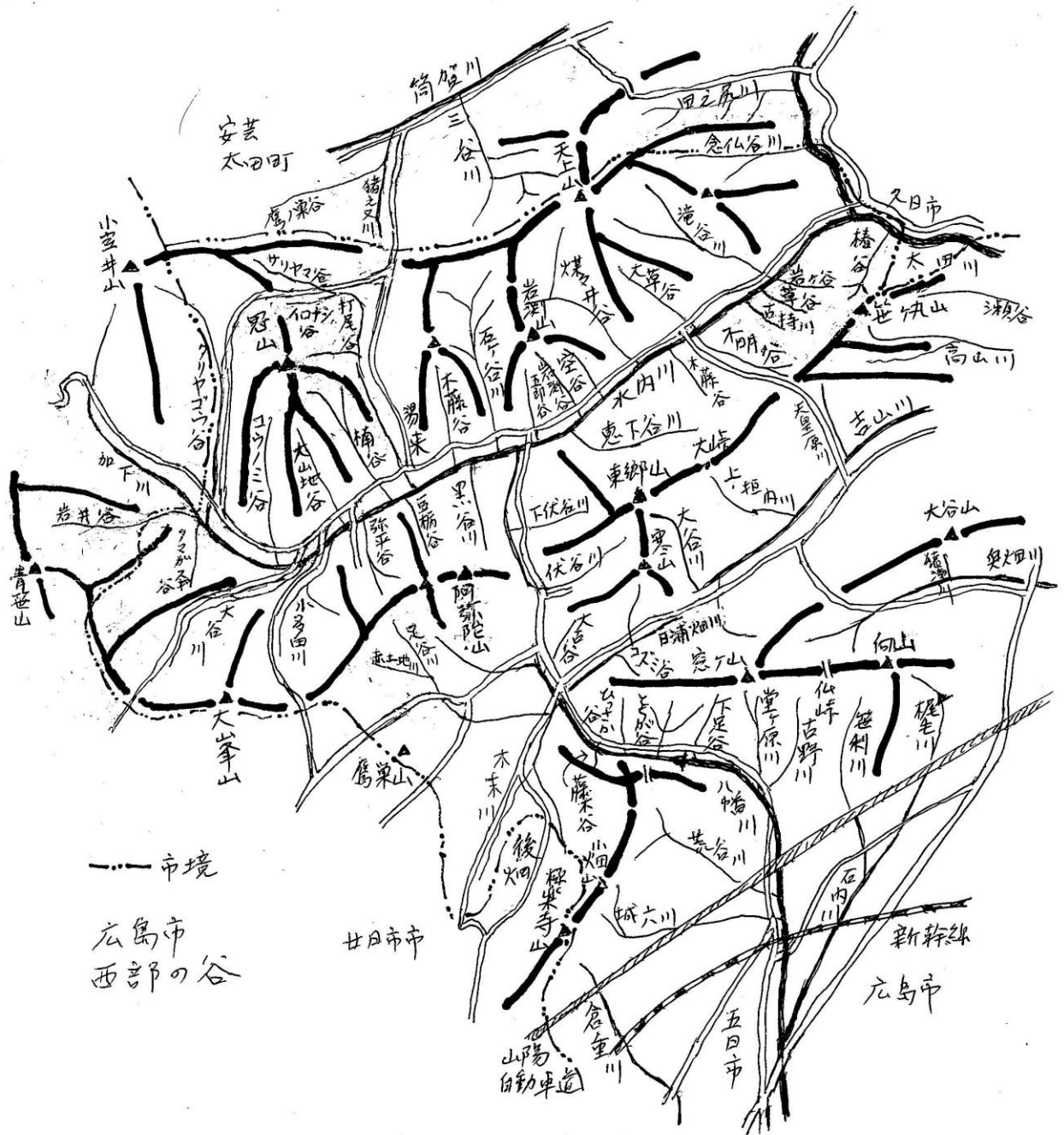


2. 概要図

広島市西部の谷の概要図を示す。ここで、広島市西部とは、佐伯区、湯来町、安佐南区と安佐北区及び安芸大田町の一部を指している。概要図で見ると、北側から加計断層(筒賀川)、湯の山断層(水内川)、鷹巣山断層(吉山川)、八幡川断層(八幡川)の四つの断層にそって山脈と川があることが良くわかる。これら深い溪谷をなす川に落ち込む支川は急峻で滝をかけるものが多い。湯の山断層では、天上山や湯来冠山の谷がスケールの大きな沢登りを楽しめる。岩淵山の谷は短いながらスラブの懸崖に囲まれている。鷹ノ巣山断層では、東郷山の谷が花崗岩の滝やナメが美しい。阿弥陀山では谷奥の廃村や山上の池をめぐり、また笹ヶ丸山では、古の峠道を辿って隠れた美溪を探訪する谷歩きができる。大峯山は、地図上では意外にも、遡行対象になりそうな谷は見つけられない。八幡川断層では、窓ヶ山の谷が、流程は短いが手ごわいゴルジュや滝を有し面白い。極楽寺山や向山では、手近に谷の奥深さを味わえる。(写真は念仏谷川左谷の15m滝)



¹ <https://www.yamareco.com/modules/yamareco/userinfo-596888-prof.html>



--- 市境
 広島市
 西部の谷

3. 極楽寺山山域

極楽寺山(693m)は頂上に真言宗の古刹極楽寺があり、古くより周辺の各村からの参拝道がある。広島市の五日市と廿日市市の境に北から南に延びるかなりの大きさの山で、西面の蛇の池側は公園として整備され、後畑からは車道も通じている。山頂付近はモミの原生林が残るが、山麓の多くは杉の植林地であり、概ね谷は暗い。滝としては、南面の巢丸の滝が知られているが、沢登りの興味となるのは、多少とも山深さの残る倉重川以北の小畑山(617m)に続く東面の溪流である。アプローチはいずれも中国自然歩道が利用できる。倉重川本流は、以前は溪谷沿いに登山道があったが、現在は尾根沿いに付け替えられており、滝はありそうだが、まだ未見である。右俣は小ぶりだが大岩や滝もあり、左岸尾根には自然林も残る。八幡川支流の城六川支川はナメが美しく、「つんばくろうの滝」と呼ばれる大滝がある。また、城六川左谷にもすばらしいスラブ大滝があり、小畑山の頂上直下にはゴルジュや大岩も現れ、奥深い雰囲気を楽しめる。谷を忠実につめれば、藪漕ぎは少ないが、それとシダやつたの藪が煩い。北面の荒谷川は左谷の畑の谷大滝が有名なゴルジュの谷であるが、堰堤が連続し沢登りの対象とはならない。上流の枝谷はいずれも短く、すぐに水が枯れ滝も少ない。右谷の旧河内峠手前で 568m ピーク(三角点名高森)を源とする谷は出会いの滝以外、杉の倒木も多く、みるべきものはない。さらに中国自然歩道を北にたどり旧河内峠を越えると、八幡川右岸では、芸藩通志にも書かれた八幡川支流藤木谷の藤木の滝が知られている。小溪流だが、岩盤が張って滝も多い。詰め上げて尾根を南下すれば、大杉集落や高森山方面に出る。

極楽寺山小畑山 倉重川右俣

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3290351.html>

日程 2021年06月20日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 佐伯運動公園上駐車場

コースタイム 日帰り 山行 2時間35分 休憩 10分 合計 2時間45分

S 展望広場駐車場 09:15 09:45 登山道右俣分岐 09:50 堰堤上 10:00 11:00 小畑尾根 12:00

右俣出会い G

コース状況／危険箇所等 アプローチの登山道は特に問題なし。

その他周辺情報 佐伯運動公園上の展望広場に、駐車場とトイレあり。この展望広場は5月ごろ小型のタカ(ハチクマ)の観察場所としてにぎわう。

梅雨時の水の多い時期を選んで、小畑山の沢を歩いてきた。人が多く訪れる極楽寺山のそばにも関わらず、沢登りの対象では無いから谷の情報は少なく、尾根道を登りながら興味を持ったのが始まりである。基本、針葉樹の植林帯だが、谷沿いは自然林も残り明るい場所もある。大きな滝こそなかったが、この山域特有の大きな岩に囲まれ、谷の雰囲気はなかなか良く静かな山を楽しめた。左沢のつめのやぶこぎはない。右沢への下降は登山道でひとつピークを越えた鞍部からだが、最初が急だった。全体として、ロープは使わなかった。(写真は右沢の5m斜瀑)



極楽寺山小畑山 城六川支川(オオルリ沢)

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3316877.html>

日程 2021年07月01日(木) [日帰り]

アクセス利用交通機関 バス 彩が丘団地

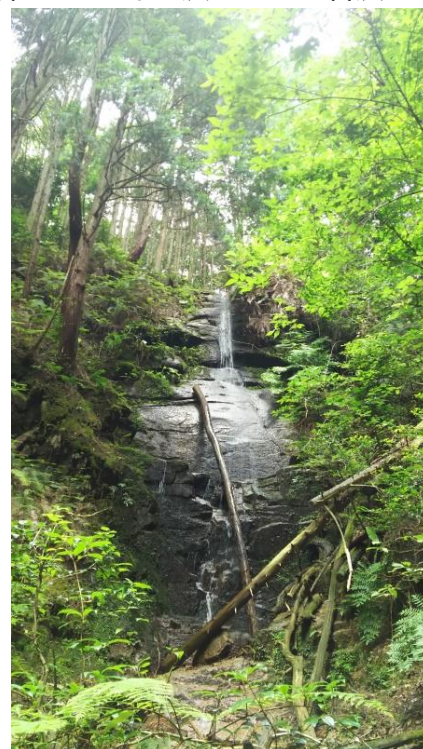
コースタイム 日帰り 山行 4時間20分 休憩 30分 合計 4時間50分

S 彩が丘団地バス停 09:20 10:15 中国自然歩道 10:20 二俣 11:10 小畑③コース中電巡視路
11:20 小畑①コース一枚岩の尾根 11:40 12:30 二俣 13:10 小畑②コース倉重登山道 13:20
13:40 小畑①コース一枚岩の尾根 14:10 彩が丘上バス停 G

コース状況/危険箇所等 登山道については危険箇所なし

前回の倉重川につづき、極楽寺山から連なる小畑山に突き上げる城六川支川を遡ってみた。城六川支川は中国自然歩道を横切っている「オオルリ沢」で、そこからも簡単に入渓できるが、中国自然歩道から見下ろす景色が気になっていたのも、物好きにも下流の彩が丘団地から入渓した。中国自然歩道の下は中々良い渓相になっていた。オオルリ沢と名前がつけられた谷を引き続き上ると、ナメをすぎて、すぐに二俣になる。左沢の最大の滝は姿の良い4m滝だが、詰めが藪漕ぎになる。左沢をつめて右沢に下る予定が間違えて左沢を下ってしまったが、結果的には右沢の大滝を登ることができて良かった。左沢よりも右沢のほうが良い滝が多く、つめの藪漕ぎもない。右沢の大滝はあまり知られていないようだが、滝の下までなら簡単にいくことができるのでお勧めする。なお、コースタイム中の「小畑①コース」等の名称は「極楽寺山百回登山」のHPから引用した。この場をかりてお礼申し上げます。

(追記)右沢の大滝は、「倉重わがまち伝承誌」によれば、「昔の話に、ツバメがぎょうさん(たくさん)飛びかっていたので、「つんばくろうの滝」と呼ばれています。このツバメは岩燕と思われる。」また、中国自然歩道を北に700mくらい入るが、「山道が水害で崩れていますので行くことができません。また5~10月頃までは「マムシ」がたくさんいますので、危険で近寄ることができません」と恐ろしい記載がある。また、「いつかいちの地名をさぐる」の倉重村に「一枚岩、つばくろ岩とも云。岩燕が巣をかけそうな岩。一枚岩だが、崩れ、つばけたような形か。」とあり、小畑の一枚岩と関連があるのかもしれない。(写真はつんばくろうの滝15m)



☞つんばくろうの滝は、下段をシャワークライムで登り、右の泥付キルンゼから小さく高巻く。

極楽寺山小畑山 城六川左谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3347941.html>

日程 2021年07月17日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 佐伯運動公園 展望広場駐車場

コースタイム 日帰り 山行 4時間23分 休憩 32分 合計 4時間55分

S 極楽寺山の案内板 09:20 09:40 中国自然歩道涸沢出会 09:50 10:10 二俣 10:32 左俣奥二俣
11:00 小畑山一枚岩尾根 11:12 610m ピーク 11:55 左俣奥二俣 12:08 二俣 12:25 13:20 小畑
山北東尾根 13:25 13:32 小畑山頂上 14:15 極楽寺山「倉重登山口」G

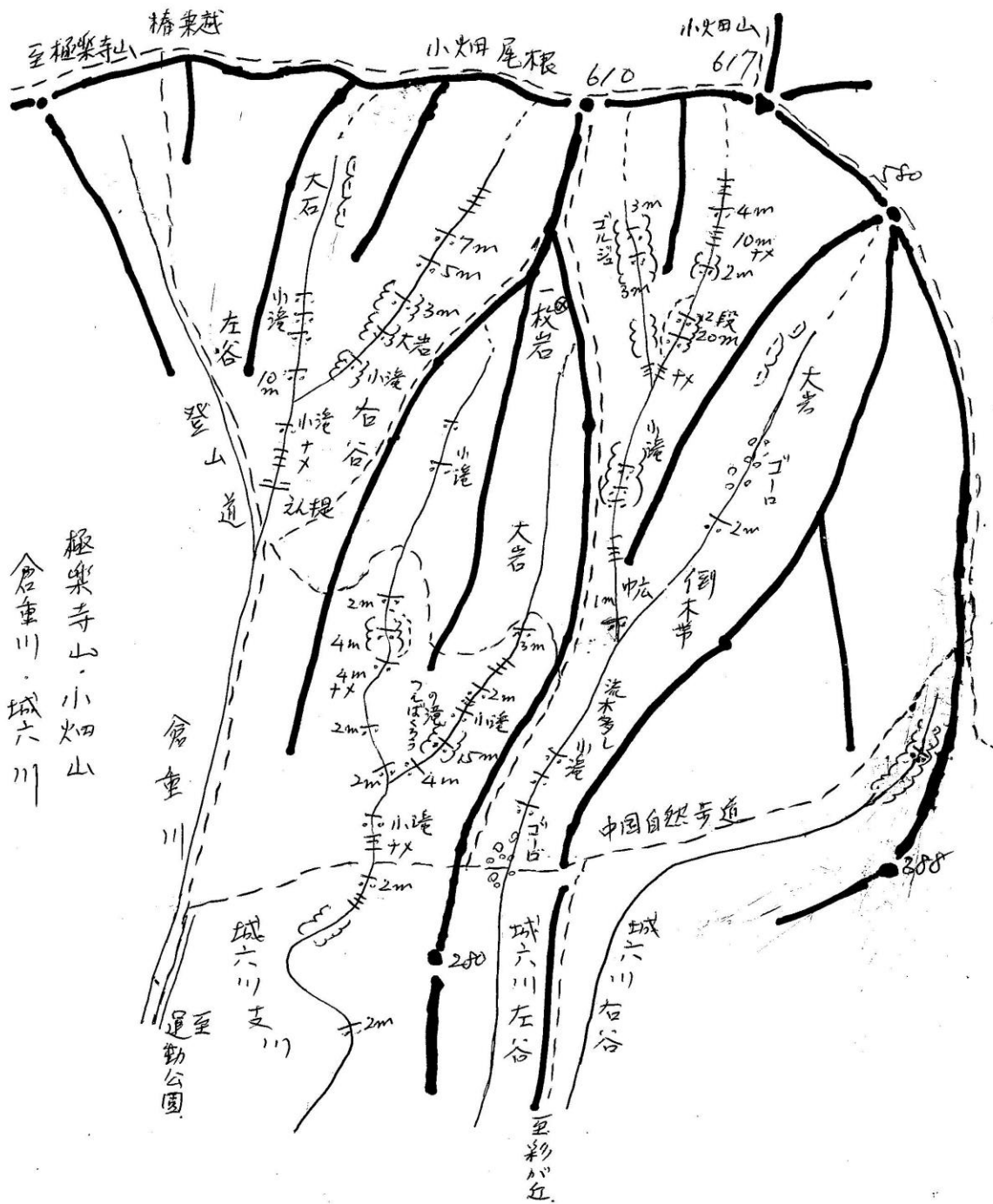
コース状況／危険箇所等 小畑③派生コースは少し道が不明瞭。

その他周辺情報 佐伯運動公園 展望広場にトイレあり

極楽寺山より連なる小畑山は静かな山だが、かなり急峻な地形を有する。この山に突き上げる城六川左谷を遡行した。中国自然歩道が横切る所に「涸沢」のプレートがあり、そこから入渓する。最初の二俣は左俣に入り、さらに奥の二俣から左沢を登る。地形図から想像したとおり、上流部で滝が多く、立派なゴルジュがあった。610m ピークを越えてから左俣右沢に下降した。すぐに水流が出て、これも地形図から想像したように滝が連続して出てきた。二俣のすぐ上流には上段が5m 直瀑、下段が10m 斜瀑のすばらしい滝があった。いずれも右岸を巻いて降りた。二俣まで戻り、右俣を登ったが、荒れた沢で大きな滝もなく、遡行価値はなかった。小畑山に登頂し、小畑③コースの派生コースを、以前遡行した倉重川右俣出会まで降りた。このコースは自然林が残り、緑がきれいだった。なお、記録中の「小畑③コース」等の名称は「極楽寺山百回登山」のHPから引用した。この場をかりてお礼申し上げます。(写真は左俣右沢2段20m滝)

☞ 左俣右沢2段20m滝は右岸から巻き降りる。





極樂寺山・小畑山
 倉重川・城六川

大杉山 八幡川支流藤木谷～柳木畑山～高森山～柿木畑山～旧河内峠周回

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3760898.html>

日程 2021年11月20日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 白川下原橋周辺に数台駐車可

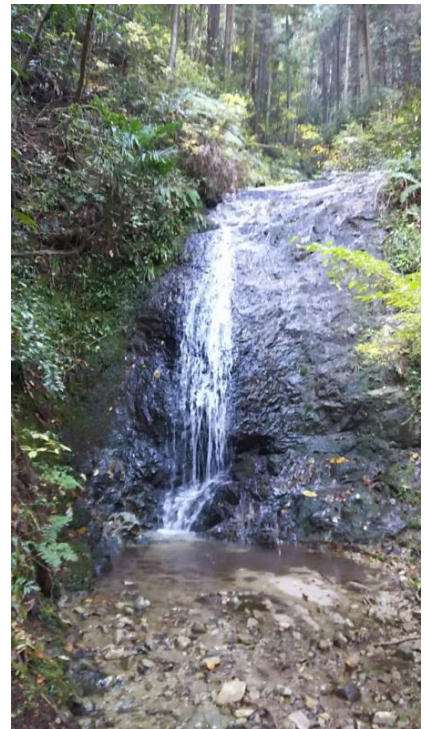
コースタイム 日帰り 山行 4時間21分 休憩 10分 合計 4時間31分

S 下原橋 09:47 09:52 藤木谷出会 11:55 柳木畑山 12:16 大杉神社旧祠 12:26 12:53 高森山 13:16 柿木畑山 13:50 旧河内峠 14:05 下河内登山口 14:18 下原橋 G

コース状況／危険箇所等 下原橋南詰めから藤木谷へのルートは細い踏み跡で八幡川からかなり高い急斜面を巻いて降りるので注意が必要。藤木谷の詰めから大杉へは南に向かう尾根上に明瞭な踏み跡があるが、新しい林道と並走する部分で荒れているので注意。高森山から旧河内峠へは西に少し下り青テープのある分岐から明瞭な北尾根上の道をたどる。旧河内峠への分岐は分かりにくい、西の鳴谷からの踏み跡が合流する少し先で、赤テープが示す右手の北東向きに谷に沿ってくだる。

その他周辺情報 白川上にコンビニあり。

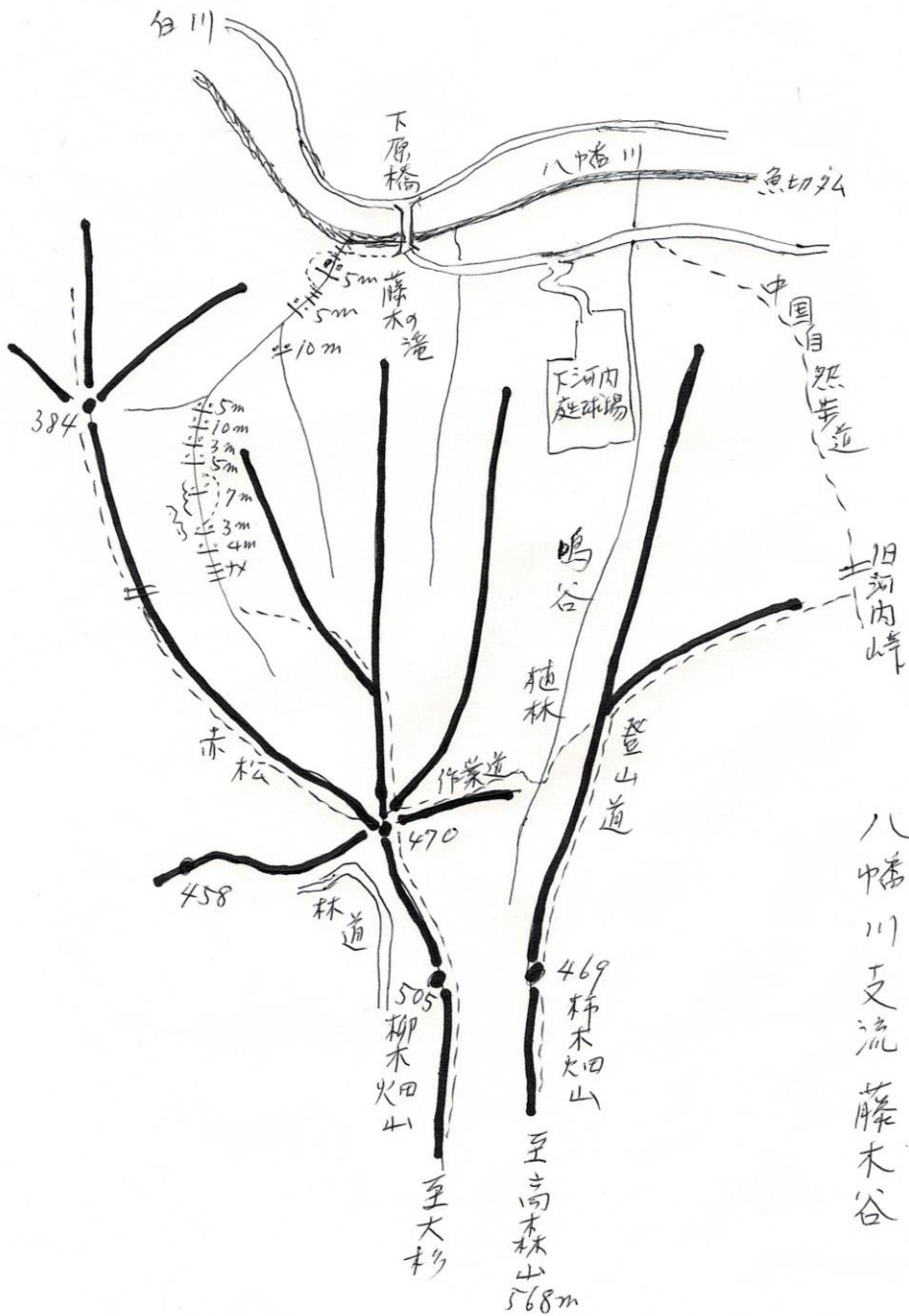
下河内白川の滝巡り(その 2)。藤木の滝は芸藩通志*に書かれ、「ふるさと河内古今探訪」や「八幡川歴史探訪ガイドブック」**には、「旧街道はこの滝の下あたりを通っていた。全長約 10m の滝で、この滝水は湯来の湯と同じ効果があると伝えられている。この一帯は昔からの言い伝えが豊富で藤木谷の奥には御影石の屏風岩があり、古老の話によると祠があったそうだとある。古を偲び藤木谷をつめて、大杉集落まで南尾根を歩き、U ターンして高森山から北へ向かい旧河内峠へ降りるという鳴谷(下河内庭球場の谷)を囲む周回コースを計画し歩いてみた。明治 29 年の地形図では八幡川右岸沿いに旧河内峠からの街道があるが、魚切ダムバックウォーターによる水位上昇で消滅したのか、現在は高巻かないと藤木谷出会には到達できない。なお、コース中のピーク名は、「河内の山と川の歴史」および「芸藩通志」による。高森山は大杉山と呼ばれることが多いが、点名も高森である。柿木畑山は現在は柿畑山と略されている。周辺には名前に木や畑のつく山谷が多い。藤木谷は藤木の滝だけかと思ったら、岩盤が発達し山の高さの割には滝が多い谷であった。周回コースは概ね松林の中の静かな尾根道で藪もなく気持ちがいいが、廿日市市境は地図にない新しい無舗装の林道が上がってきており、残念だった。(写真は藤木の滝)



☞ 藤木の滝(5m)は右手の獣道から巻ける。

* <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/e/c/ecd1481d.jpg>

** <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/9509.pdf>



4. 向山山域

西風新都のすぐ西に位置する向山(666m)は、石内地区では高山と呼ばれ、ピラミダルな山容が特徴である。頂上付近には大原の展望や固目ヶ岳などの岩場があり、西尾根は仏峠を經由し窓ヶ山へとつながっている。また、源氏大休みの壇などの言い伝えも残されている。その山容から谷の発達は少なく、比較的大きな谷は、東側から切れ込む梶毛川の源流で、ここには大谷(おおえき)の滝という知られた滝があり、荒れてはいるが登山道もある。小ぶりではあるが沢登りとしても、手軽に楽しめる。南面には、芸藩通志にも書かれている手打ヶ滝があり、上部を登山道が通っているが、神原から大原へ抜ける古道から梶毛川支流の吉合津川を詰めれば、岩に囲まれたちょっとした異世界を楽しむことができる。植林帯を抜けると上部は手強い藪岩登りとなり固目ヶ岳に出る。その西隣には、笹利川源流に、やはり水量は少ないが大原の滝の谷があるが、まだ未見で荒れていると聞く。

向山から奥畑川をはさんだ北側には大谷山(637m)があり、窓ヶ山に続く稜線上には横タキ、天狗タキなどの岩場がある。奥畑川支流の猿滝谷は滝場もあるがスケールは小さい。

向山 梶毛川 大谷の滝

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4404576.html>

日程 2022年06月18日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 神原集会所近くの路上に駐車

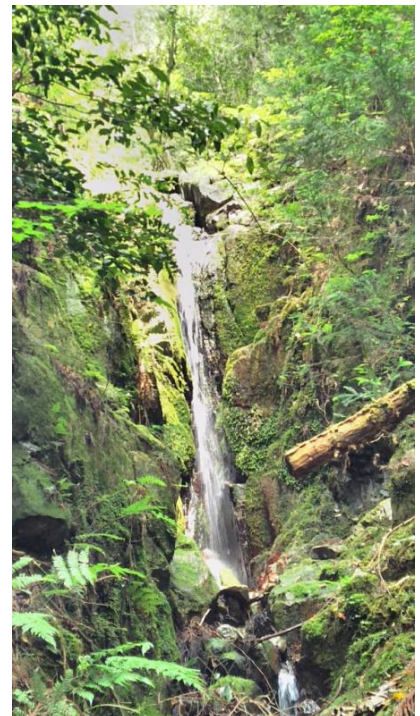
コースタイム 日帰り 山行 3時間3分 休憩 19分 合計 3時間22分

S 神原集会場 09:40 10:10 大谷の滝分岐 10:39 大谷の滝 12:00 向山 12:03 12:07 奥原の岩場 12:09 12:16 固目ヶ岳 12:30 13:02 神原集会場 G

コース状況／危険箇所等 神原からの D コースの入り口は案内板なく、草が茂ってわかりにくい、小さな橋の脇から入ると、広い林道になる。大谷の滝分岐には案内板あり。

その他周辺情報 梶毛ダムに駐車場、トイレと展望台あり。

窓ヶ山の東に連なる向山(石内では高山)はピラミダルな山容で、谷は発達していないが、唯一谷らしいのが梶毛(鍛冶計)川の源流である。ここには、大谷(おおえき)の滝と呼ばれる滝があり、悪いながら登山道もある。「石内の高山」ガイドブック*によれば、古くは谷のことを「えき」と呼んだことから名づけられ、高山で唯一滝らしい滝と解説されている。以前、登山道からたどったとき、ゴルジュっぽいものもあり、遡行すれば面白そうと思って今回の探索となった。スケールは小さいが、コンパクトに沢の要素がまとまっており、それなりに楽しめた。水量が少ないため、詰めが早くにガレになるのが残念だが、西風新都からすぐ近くで沢登りができるのも一興かもしれない。(写真は 大谷の滝)



*<http://www.cf.city.hiroshima.jp/ishiuchi-k/img/ishiuchinotakayama.pdf>

向山 吉合津川 手打ヶ滝を下から見る

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4930653.html>

日程 2022年11月19日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 石内バイパスより梶毛ダム方面に入り、神原集落の集会所を過ぎた路上に駐車

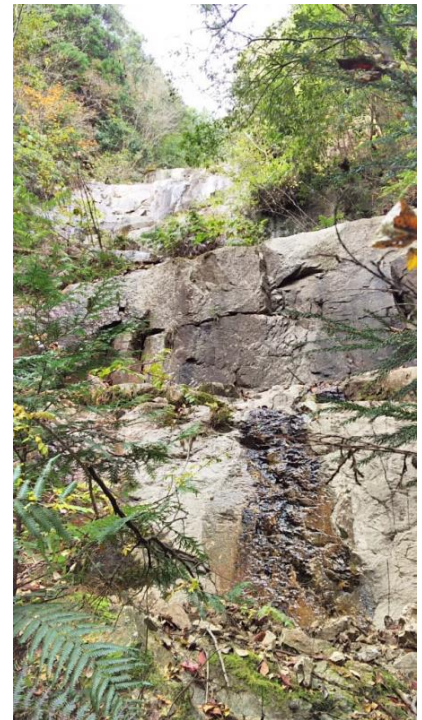
コースタイム 日帰り 山行 2時間8分 休憩 21分 合計 2時間29分

S 神原 11:32 13:07 固目ヶ岳 13:28 14:01 神原 G

コース状況／危険箇所等 一般道は特に問題なし

その他周辺情報 梶毛ダムにトイレあり

午後から半日時間がとれたので、近場で懸案として残っていた、向山の手打が滝を下から見る計画を実行した。手打が滝は芸藩通志の石内村*にもかかっている良く知られた滝で(通志では手打ノ滝)、向山への藤の木団地からの登山道が滝の落ち口のすぐ上を横切っている。しかし、上から覗いても大きな空間は広がっているが、滝の全体像は見えない。手打が滝のある梶毛川の支流である吉合津(よごうず)川の源流へは、神原から笹利への古道をたどるとすぐに藪に覆われた冴えない出会につく。あまり、期待ができずに堰堤を越えていくと意外や、岩盤が発達し、面白い谷になってきた。兩岸に岩が迫ったところなど、少し神秘的で雰囲気が良い。この谷の滝は節理が階段状で登りやすいが、ぬめっている。手打が滝へは長い階段状ナメがアプローチとなっており、控えの10m 段滝を登ると現れる。下から見上げると、スラブ状の3段30m でなかなかの迫力である。1段目は登れるが、2段目、3段目は登れず、左より巻いて登山道に出た。そのまま、谷をつめ固目ヶ岳(タキ=広島地方で懸崖をさす)を目指す。急な藪岩を腕力登攀したが、残念



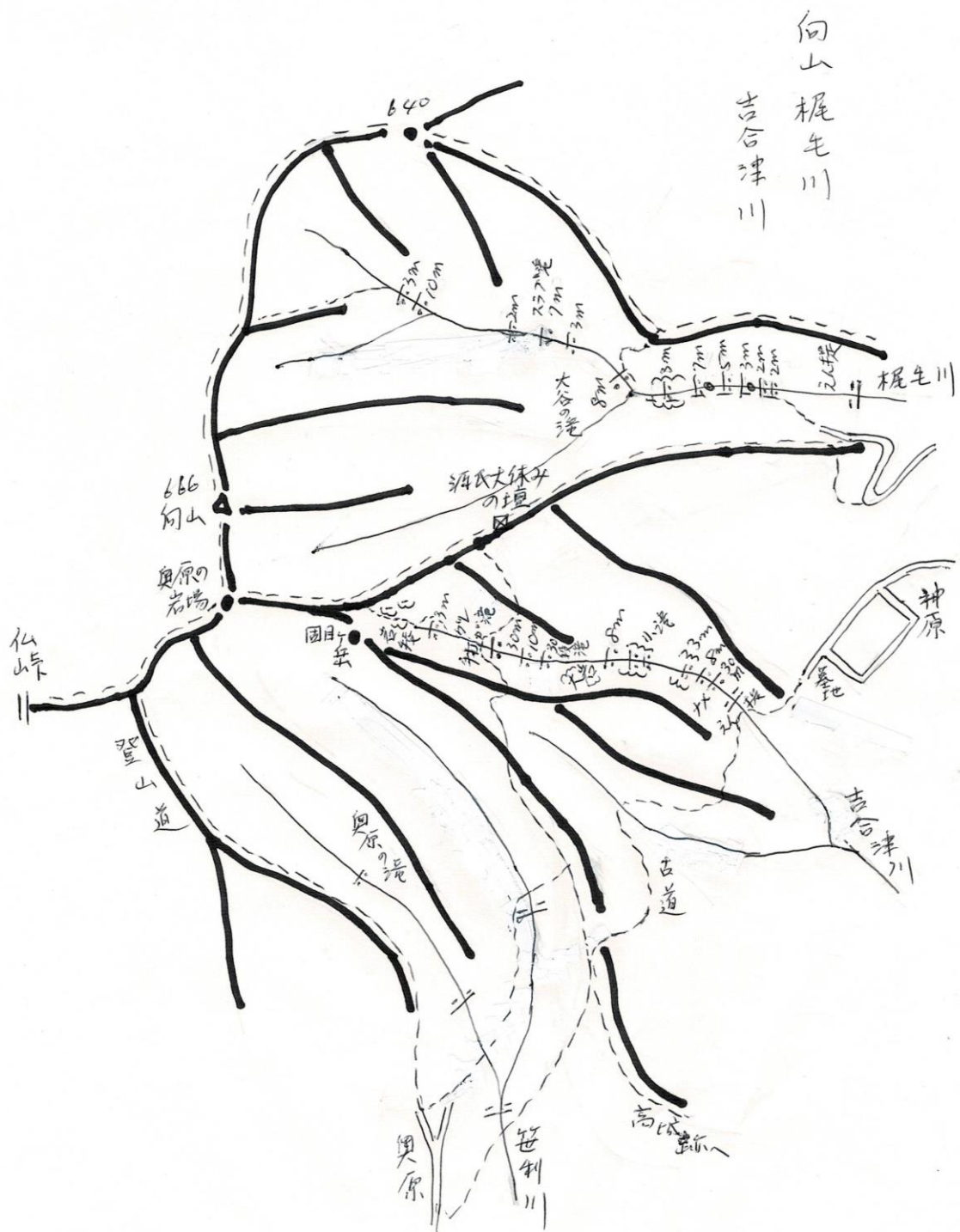
ながら固目ヶ岳には到達せず、すこし下で登山道に出てしまった。水量が少ないため、落石等が多く、きれいな谷ではないが、近場でありながら短時間でちょっとした異空間を楽しめた。(写真は手打が滝)

* <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/6/e/6ebeb69c.jpg>

絵図では滝の下にサイノ神の祠があり、「手打ち(洗い)水」から手打が滝と呼ばれたようである**。今は荒れているが、昔は身近な場所だったようだ。なお、多加山(高山)は、向山の石内側の呼び名である。

** <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/9446.pdf>

これには手打が滝が50~60mとあるが、おおげさだろう。なお、五日市の土地台帳によると、吉合津は好合津となっている。下流には奈目良谷の地名もあり、ナメが多かったようだ。また、梶毛は古くは、鍛冶計と書いた。芸藩通志には鍛冶手組とある。



横滝山(大谷山)猿滝川 ってどこ？

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4990816.html>

日程 2022年12月10日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 伴西(五)の西風新都バイオマス発電所への道路の脇の空き地に駐車。猿滝川右岸沿いの砂防ダム管理道を行き、堰堤を2つ過ぎた突き当たりから入渓。

コースタイム 日帰り 山行 3時間27分 休憩 10分 合計 3時間37分

S 西風新都バイオマス発電所 09:37 11:05 猿滝川二俣 11:55 大谷山(横滝山) 12:05 12:15 天狗滝山 13:14 奥畑バス停 G

コース状況／危険箇所等 横滝山から天狗嶽まで、尾根上は赤テープもあって藪もなく歩きやすい。天狗嶽から南の尾根に引き込まれやすいが、桜ヶ峠方面は西の尾根をたどる。奥畑へのくだりは枝打ちの跡の枝が放置され歩きにくい。

横滝山の猿滝川ってどこですか？といわれそうな、超マイナーな谷である。横滝山 637m は大谷山ともいい、窓ヶ山から北東に延びる、吉山川と奥畑川にはさまれ、桜ヶ峠から天狗嶽さらに岳山へと続く山稜上にある西風新都の北の山であり、時折記録も見かける*。猿滝川は横滝山から南下し、奥畑の入口で奥畑川に注いでいる小渓流であるが、地形図で見ると、上流二俣の下部に両側から枝尾根が迫り、巾着のように谷が狭くなっているのが気になる。横滝や猿滝、天狗嶽のタキは広島で懸崖をいうタキであろう。そうならば、岩の多い地形であり、巾着部分には大滝が隠されているのではないだろうか？こんな低山の「陽のあたらないところ」が気になるのは、自分でも馬鹿げていると思うが、新しくできたらしい、なんとも場違いな西風新都バイオマス発電所**の脇の砂防ダム管理道を上がっていき、大きな堰堤を2つ越えてから猿滝川に入渓した。冬枯れの小渓流にもかかわらず、結構水量があるのは、岩盤上を流れているからだろう。すぐに、大滝10mが現れ、少し驚く。短い谷なので、ほどなく例の巾着部に着いた。予想通り、いくつかの大きめの滝からなり、ちよっぴり楽しませてくれた。二俣を越えた源頭部には岩崖があらわれ、そのどれかが猿タキなのかもしれない。横滝山頂上からは、窓ヶ山裏ルートを南西へ天狗嶽へと縦走し、奥畑に降りたが、やっぱりスケールがちいさいなあ。ちょうど居合わせたバスに乗ったはいいが、降りるバス停がわからず、乗り過ぎてしまい、延々と車道を歩いて戻るといふオマケつきで、陽のあたらない山行は終わったのだった。(写真は核心部の10m滝)



* <https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-606374.html>

** <https://www.taihei-dengyo.co.jp/business/seihushinto/>

付記:大谷山の記録を検索していたら、西風新都バイオマス発電所から、猿滝川の左岸尾根を登り、大谷山から桜ヶ峠へ抜けた記録を見つけた。同志に拍手。

<https://yamap.com/activities/9201888>

